

日本キリスト教会大阪北教会
2017年4月2日 礼拝説教 牧師 森田幸男

《説教》『キリスト、裏切られ、逮捕される』

わたしたちはいま、受難節を過ごしております。週報に書いてありますように、今年の受難節は3月一日から4月15日までの日曜日を除く40日間であります。日曜日は主イエス・キリストの復活記念日であります。十字架の苦難を偲ばれたイエス様がよみがえられた復活の日が受難節の中から除くのです。そのような中でわたしたちは主のご受難を偲びながら、皆さんは主イエス・キリストの十字架の七言。こうされるとどのお言葉を思い起こされるでしょうか。今日は子どもたちと一緒に読んだ聖書の箇所は、その十字架上の七言が出てくる、ルカによる福音書の箇所を読みました。ルカによる福音書の23章39節以下です。イエス様と共に十字架にかけられた犯罪人とイエス様との十字架上での会話であります。一人の犯罪人はずっとイエス様に対してたてついています。「お前が救い主なら、お前の十字架から下り、我々も救ってみよ」。こういうふうに繰り返し叫んでいる。ところが、もう一人の方はそれをたしなめている。「我々が十字架で死刑になったのも、自分のしたことの報いだから、それは当然だ。けれどもこのお方は違う。何も悪いことをしていない。」。こういうふうに言います。そして彼は「イエス様、あなたのみ国にお出でになるときは、わたしを思い出してください」。こういうふうに頼みました。するとイエス様は「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」。と言われます。この箇所を子どもたちと一緒に読みました。もう、数週間前から紙芝居なしで、子どもたちと一緒に聖書を読んで会話しながら説教しています。それで、もう十字架にかけられるということは、当時のローマ帝国における国家反逆罪ともいえるべき者に対する処刑であります。逃げることも、どうすることもできない正に、追い詰められた状況であります。けれども、そういう中でその死刑さえも自分のしたことの報いと彼は受け止めるのですね。そしてイエス様に「イエスさま、あなたがみ国にお出でになる時にはわたしを思い出してください。」こう頼みますとイエス様は「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」。こうお答えになりました。説教の題はインマヌエルとしました。これは処女マリアが身ごもった、婚約中のヨセフはこれを知って離縁しようとした。その時御使いが現れて、御霊によって身ごもったのだ。そしてマリアから生まれるものは「インマヌエル」と呼ばれる。イエス様のお名前ですね、インマヌエルとは、「神、我らと共にいます」という意味である。そしてこの犯罪人は「イエスさま、あなたが御国にお出でになる時には、わたしを思い出してください」。それでイエス様様「ははっきり言うておくがあなたは今日、わたしと一緒に樂園、パラダイスにいる」。こうお答えになりました。こうみていますと、この犯罪人は十字架にかけられても、イエス様の横で十字架の苦しみを受けながら、そしてイエス様の十字架上の言葉を聴きながら、「父よ、彼らをお赦してください。彼らは何をしているのか分からずにいるのです。」。そういうお祈りを聞くにつけて、だんだんとこれまでにイエス感が、キリスト感が改まっていくわけです。同時に自分の死刑さえも、当然だという罪認

識に至るわけです。しかしこの方はこんな事件でも心にとめてくださるだろう。どうか止めてください。と頼む。するとイエス様の答えは「あなたは今日、わたしと一緒に楽園にいる」。こうおっしゃったのです。ここを読んでおきますと、わたししたくわけです。ちもいろんなことで思い煩うわけです。そしてそういうことが本当に起こってくるわけです。そして彼の場合は十字架で今死刑になっている。そんな中で彼の場合本当に希望が湧いた。え？そんな人もいるのかと。彼は謙虚にどうかこんなわたしですが心に秘めて忘れないでください。と、控えめな混乱、というか、彼はまた目が開かれた。目が見える。わたしたちがどんなに追い詰められようがこの世的な事情で、或いは自分自身の罪のゆえに、追い詰められようが、このイエスという方はそんな者と共にいてくださる。・・・？わたしたちいろんな思い患いがあります。けれどもわたしたちのために、わたしたちに代わって。苦しまれ、身代わりになって、くださったところのイエス様はまさにインマヌエルであります。どんな状況でも、わたしは何者であってもそのような者と共にいてくださるということは、崩れないのです。そして今日あなたはわたしと一緒に楽園にいるのだ。こういうふうに言ってくださる。これがわたしたちが与っている信仰の幸いなのですね。そしたらわたしたちはだいぶイエスさまがもたらしてくださっていることから離れて行くのでないでしょうか。そんなことで、今日の聖書、上田長老は拝読という言葉を使われましたが、わたしたち聖書は本当に拝読しなければいけないとおもいます。そして今日読んだ中にイエス様の「わたしである」「わたしである」「わたしである」とこういうふうに3回言っておられますね。これはローマの兵士たちとそれから神殿当局から遣わされた・・・この一隊の兵士というふうに書いてあります。一隊というのは600人からなる軍団のことを言う。それが証拠に今日の箇所は11節まで、次のところを見ますと、「そこで一隊の兵士と千人隊長、およびユダヤ人の下役たちはイエスを捕えて云々」とあります。100人隊長というのはよく聞きますね。イエス様が十字架にかけられた時、その指揮官が100人隊長。この1100人隊長がキリストの十字架上の姿と七言を聞いているうちに「この人は本当に神の子であった。」と告白している。これは100人隊長なのですね。ところがいまもうしましたように、12節では「そこで、一隊の兵士と千人隊長」と書いてあります。それぐらいの者がやって来てイエスさまを捕えるのです。そこでイエス様は逃げも隠れもしないで「あなたがた何を捜しているのか」「ナザレのイエスだ」と答えると、イエスは「わたしである」といわれた。イエスが「わたしである」といわれたとき、彼らは後ずさりして地に倒れた。そこでイエスが「誰を捜しているのか」と重ねてお尋ねになると彼ら「は「ナザレのイエスだ」と言った。するとイエスは言われた。「わたしであると言ったではないか。わたしを捜しているのならこの人々は去らせなさい」。こういうふうにわたしはここにいるという意味ですね。わたしはあなたと共にいる」どんな厳しい状況であろうと、わたしはあなたと共にいる」「あなたがたと共にいる」と神様はご自分の名前を彼に知らせ、正にそのようなお方であることは、旧約聖書が全巻挙げてわたしたちに証しているところでもあります。このお言葉ですね。「ナザレのイエスはこのわたしだ」と言った。そしたらイエス様が「エゴー・エミー」と言ったら、兵士は後ずさりして地に倒れた。と書いてありますね。600人、千人近い兵士で迫っているわけです。イエス様の

元には10人そこらですね。ところがこのイエス様の言葉に威圧されて兵士はそこ
にたおれるわけです。このようなことでありまして、正に神様は「わたしはあなた
と共にいる」そういう意味が旧約聖書を背景にすると響いてくるわけです。そして
イエス様はおっしゃいました。「わたしを捜しているのなら、この人々は去らせな
さい」。こういうふうにして弟子たちは去ることができた。あなたがたの目当ては
わたしなのだから、この人たちは去らせて。イエス様が彼らを退散させたというこ
とですね。「わたしを捜しているのならこの人たちを去らせなさい」。このお言葉に
それこそイエス様の地上の30数年の歩みを貫く、イエス様という方の根本姿勢が
如実にこの局面で現れたと思います。イエス様はわたしたちだれ1人をも失わない
ように憐み見てくださるお方です。そのようなことでありまして、わたしたち
の人生、いつ、いかなる時に、いかなる試練に遭うか、本当に予想ができません。
そしてある時身に起こるのです。そのようなぎりぎりのところで、先ほど触れた
あの犯罪人がどんどん、どんどん、聖書全巻が証しするこの幸い上のエースに十字
架上で入って行くわけです。いついかなる時にもあなたがどうであれ、どういう境
地に陥っても、わたしが共にいる。これがイエス様と一つであられる神様の恵み深
い顧みであります。それでこの前触れましたがヨハネによる福音書のこの間ドイツ
から来られたクラカート先生の講演を西宮中央で聞いた時に今このヨハネ福音書
の最新の註解書が出ている。と、ヨハネによる福音書17章のところで永遠の3節
「永遠の命とは唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになっ
たイエス・キリストを知ることです。」解説のような言葉がイエスさまのお祈りの中
に入っているのです。これは素直に読むと違和感を感じますね。これはイエス様の
お言葉ではなくてヨハネ福音書の著者の解説がここに入っている。と読むのが素直
だと思います。その註解書はどういう註解書かというと、マルコ、マタイ、ルカ。
この3つの福音書をヨハネの著者は知っていると。そしてそれを本当に読んで、読
んで、読んで、冥想して、ヨハネの福音書を書いた。こういう視点で書かれた。註
解書は最近出たもので、と、紹介された。今思い新たに、結局どういうことかとい
うとイエス様は福音書の中で繰り返された。「わたしと父とは一つである」と。わ
たしが語ること、わたしが勝手に言うのではなくて、父から言われたことをわたしは
語るのだ。だからわたしが語ることは父なる神の言葉でもある。父とわたしは一つ
である。これは繰り返しいわれる。ここまではついて行ける。ところが17章3節
「永遠の命」とか唯一のまことの神であられるあなたの（そこまではいい）あなた
のお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。（首をかしげたくなる）そ
こで、今申しましたマルコ、マタイ、ルカ。を読んで、冥想してこのヨハネ・・・
そのときに神様とイエス様と一体性、共にイエス様と自分の一体性の中に彼は引き
入れられていた。ですからイエスさまのおっしゃることと、イエスさまのおもにな
ることと、それをしたためているヨハネ福音書の著者。

イエス様ご自身のお祈りの言葉としてはおかしいです。しかし主イエス・キリスト
にあらされ、結ばれ、一体とされた者の信仰告白としてはこれでじっくりいくわk
3です。そこまでイエス様はわたしたちと一つであってくださるということではな
いでしょうか。詩篇の121篇。「私は山に向かって目を上げる 私の助けはど

こから来るのだろうか 私の助けは天地を造られた 主から来る
これはおそらく詩篇 23 篇と共にイスラエルの民が一番くちずさんだ詩編だと思います。ユダヤ人はどこに住んでいても年に 3 回、エルサレムに行つて 3 大祭りには都詣でをする。そのときに歌い交わしながら都詣でした歌がこの 121 篇です。その道中で何が起こるか分からない。その時に「天地を創造された神共にいます」そして神を賛美しつつ、エルサレムに行つて神を礼拝する。人間的にどうにもならない時があるのです。けれども私の助けは天と地を創造された主なる神様から来るのです。 あしあと これはある詩人が自分の人生の歩みの中から作り出した詩です。私たちも力尽きる時があります。その時にもわたしたちの主、イエス様は私と共に歩んでくださる方です。私たちはそのような主に出会うべく赦された者たちであります。知るといふのは一体になって知ることですね。ただ知識でなく。そのような幸いにいよいよ・・・

お祈りいたします

憐み深い主イエス・キリストの父なる神様

あなたの変わる事のない御愛、顧み、支え、導き、を新たに覚えて感謝いたします。どうかいよいよあなたと一つにせられて、この幸いを常に、とこしえに、生きて、そして私たちの歩みが、人生が、言動があなたを証しするものであらしめてください。

この祈りイエス様の御名を通しみ前におささげいたします。 アーメン